

# 中小企業海外展開調査支援事業成果事例

【事業名】ベトナムへの進出に関するメッキ加工ニーズ調査

## 日成化学鍍金工業株式会社

### 会社概要

- 所在地 尼崎市名神町 1-1-13
- 代表者 代表取締役 中島秀和
- 業種 電気メッキ業
- 業務概要 電気メッキ加工（クロムメッキ、ニッケルメッキ、ハンダメッキ、スズメッキ、鉛メッキ、無電解ニッケルメッキ、黒クロムメッキ、黒染
- 資本金 1,000 万円
- 従業員数 20 人
- URL <http://www.nissei-mp.co.jp/>
- 海外展開の状況及び計画  
今回のベトナム工業団地進出が初めて



ベトナム工場の従業員

### ■事業概要

1951年の創業以来、一貫して「品質」「納期」「価格」の追及に取り組んできました。高品質の製品を適正価格で迅速にお届けすることが、いかに難しいかを実感しながらも、効率化・技術革新・業務改善を推し進めることで、ご要望にお応えできるよう努めてきました。メッキにおいて、より良い製品造りの根幹を支えるのは職人の技術力です。当社の長い歴史の中で培った技術やノウハウは、脈々と次世代の職人に受け継がれ、日々さらに研鑽を積み重ねてきました。技術伝承のための取り組みとして、業務時間外の講習や作業工程のマニュアル化を推進しております。また、設備開発にも力を入れ、独自の治具開発により効率的な設備管理を行っております。少しの見直しや工夫でも、生産性は大きく改善します。常に社内意見交換を交わし、治具開発や環境改善・設備増強を行うことで設備環境は日々進化し、効率化しています。

検査機器設備の増強により、製品精度も追及しております。電気メッキ加工では、硬質クロムメッキ・ニッケルクロムメッキ、ハンダメッキ・鉛メッキを中心に、幅広いメッキ加工に対応しております。複合メッキへの積極的に取り組み、耐磨耗性を向上させたメッキの開発や非金属へのメッキなど技術革新にも努めております。



アルミメッキ完成品

2012年・2013年・2015年度には全国中小企業団体中央会の「ものづくり等支援事業」に採択され、携帯電話のカメラの斜光版を真っ黒に加工し、動画の画質をアップする技術を確立しました。2015年度は、公益財団法人ひょうご産業活性化センターの成長期待企業にも選出されました。

新技術への取り組みも創業以来受け継ぐ職人魂に支えられ進めております。挑戦なきところに成長はないと考えています。

## ■海外展開の動機と狙い

国内マーケットが縮小する中、今後海外に活路を見出さないと生き残れないのではないかと懸念していたところ、ベトナム南部ビンズオン省のミーフック工業団地に、進出に欠かせない排水設備があると聞き、2013年2月、神戸市アジア進出支援センターが派遣するアジア実践ミッションに参加し、ミーフック工業団地を訪問しました。確認の結果、ミーフック工業団地に排水処理設備はあるが、レンタル工場では使えないことが判明し、当工業団地への進出は断念しました。

引き続き工業団地の情報収集に努める過程で、2013年10月、神戸市アジア進出支援センターが主催する勉強会に参加したところ、ベトナム南部ドンナイ省のロンドウック工業団地で、関西ものづくりネットワークの支援を受けてレンタル工場に入る中小企業をサポートしている方々に出会いました。そのお話によれば、ロンドウック工業団地では日本のメッキ業者の進出を要望しており、レンタル工場も利用できる排水処理場があるとのことで、進出先の有力な候補となりました。

2014年、公益財団法人ひょうご産業活性化センターが事務局を務める「兵庫県企業経営研究会」の取り計らいで「ひょうご海外ビジネスセンター」の訪問を受け、同センターが実施している「中小企業海外展開調査支援事業」を活用して調査をしてはとの提案を受けました。ベトナムへの進出を決定するにあたり、現地でのメッキのニーズ調査やメッキ設備メーカーの調査が必要と考えていた時期で、6月同事業に申請し、採択されました。



ロンドウック工業団地  
レンタル工場正面玄関

## ■事業の目的と実施内容及び成果等

2014年7月に現地へ赴き、ベトナムでのメッキに対するニーズを調査した結果、需要があるにも関わらず現地では日系のメッキ業者が1社しかなく、その1社は注文が集中しすぎて断っている状態であり、当社が進出しても十分な受注が期待出来ると分かりました。メッキの種類としては、ニッケルメッキやクロムメッキ、アルマイトのニーズが多くあることも判明しました。

また、設備や資材関係の調達については、現地に信用のできるメッキ設備、薬品、機材を扱う会社があることがわかりました。

2015年2月、ひょうご・神戸国際ビジネススクエアの一員である神戸市アジア進出支援センターが派遣したベトナム・カンボジア・ビジネスミッションに参加し、レンタル工場入居の際の問題点、留意事項等についての情報提供を受けましたが、最終的にレンタル工場入居を決定し、入居に向けた手続きを始めました。会社登記・入居手続き等については、ロンドウック工業団地の誘致窓口であるザ・サポートベトナム(株)の協力を得ながら進めました。

2015年7月、ドンナイ省から事業ライセンスが下りたので、機械・設備の導入、労働者の確保に動き出しました。ロンドゥック工業団地には排水処理場がありますが、二重の安全を確保するため、当社自身もレンタル工場内に排水設備を設ける必要がありました。排水設備は日系企業、メッキ設備はローカル企業に発注しました。排水設備は半年で仕様が決まりましたが、メッキ設備はローカル企業相手のためコミュニケーションが取りづらく、結局、排水・メッキ両方の仕様が決まり工事に着手したのが2016年6月でした。7月に機械を導入、8月からテスト稼働を開始しており、本格稼働は10月になる予定です。



メッキ加工スタート位置

従業員は日本人1名、ベトナム人3名で、内2名はザ・サポートの紹介、1名はベトナムの人材紹介会社から技術者を紹介してもらいました。また、日本には実習生が2名おり、将来注文が増えた時に備え、コアの人材として研修を行っています。

従業員は日本人1名、ベトナム人3名で、内2名はザ・サポートの紹介、1名はベトナムの人材紹介会社から技術者を紹介してもらいました。また、日本には実習生が2名おり、将来注文が増えた時に備え、コアの人材として研修を行っています。

## ■今後の見通し

まずは、ロンドゥック工業団地内の日系の工場への仕事を確実に増やし、次いで近郊の工業団地にもビジネスを拡大し、日系に加え、ベトナム現地企業の顧客も拡大したいと考えております。

当面はザ・サポートからロンドゥック工業団地内のメーカーを紹介してもらい、注文を取っていく形になりますが、新規顧客の開拓のためには、ベトナム国内の展示会に出展して知名度を上げることも必要と考えております。



亜鉛メッキライン

## ■海外展開促進員より (川上英生)

ロンドゥック工業団地からの進出要望があつたとはいえ、排水規制の厳しいベトナムでメッキ工場を立ち上げるのは並大抵の御苦勞ではなかったと思います。中島社長は当センターのセミナーやミッションにも積極的に参加され、様々な角度から課題解決に取り組まれていたと思います。

新規顧客開拓のためのビジネスマッチングなど、当センターとして提供できる情報は今後も出てくると思いますので、引き続きサポートさせていただきます。